

氏名	水 松 真 一 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3442 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Expression of Cell Cycle Regulator p27 ^{Kip1} Is Correlated with Survival of Patients with Astrocytoma (神経膠腫におけるp27 ^{Kip1} 発現と予後との関連の検討)
論文審査委員	教授 阿部 康二 教授 小川 紀雄 教授 赤木 忠厚

学位論文内容の要旨

神経膠腫130例についてp27の発現と腫瘍悪性度、増殖能(Ki-67)および予後との関連を免疫組織化学染色法を用いて検討した。全例でKi-67およびp27陽性細胞が認められ、Ki-67陽性率の平均は12.6%、p27陽性率の平均は47.5%であった。WHO gradeの上昇に伴って、p27陽性率は有意に低下し、腫瘍の悪性化にp27発現の低下が関係している可能性が示唆された。p27陽性率高値群($\geq 50\%$)と低値群($< 50\%$)では、低値群は高値群に比べて有意に予後不良であった。悪性群(WHO grade 3・4)のみでも同様の結果であった。p27陽性率は神経膠腫の患者の予後を予測する指標として非常に有用であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本論文は神経膠腫におけるp27^{Kip1}発現と予後との関連について、神経膠腫130例の組織標本を用いて、p27の発現と腫瘍悪性度および増殖能(Ki-67)について免疫組織化学的方法により検討したものである。検討した脳腫瘍標本でのp27染色陽性率は、WHOによる組織学的悪性度の増悪に伴って有意な低下を示した。またp27陽性率低値と臨床的悪性度(死亡予後)との有意な関連も示した。さらにKi-67陽性率とp27陽性率との表裏関係も示唆したが、今回の検討では有意の逆相関は認めなかった。

このように本研究は、神経膠腫におけるp27発現と予後との関連について、腫瘍の悪性化とp27発現低下との関連を明らかにし、神経膠腫患者の予後判定指標として採取標本におけるp27陽性率の有用性を明らかにした価値ある業績と認められる。よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。